



冬季球技大会



吹奏楽部定期演奏会



学生会新役員

シリーズ 卒業を控えて……………2・3
 特集 有明高専生の活躍2014……………4・5
 シリーズ 人物・いま……………6・7
 2014アラカルト……………8・9
 シリーズ 研究室訪問……………10
 シリーズ 企業訪問……………11

目次

ロボコン/プロコン/専攻科研修旅行/デザコン/
 冬季球技大会……………12・13
 新学生会/学生会役員研修……………14
 有明高専だより……………15
 トピックス/編集後記……………16

※本文中において、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

(数字:学年、但し、6・7は専攻科1・2年。M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、但し、2年生は学年・組)

シリーズ 卒業を控えて



卒業を控えた5年生の皆さんに、高専時代の思い出など、自由に語っていただきました。(H26.12.17)

- M 末永 舜 (寮長・卓球部副部長/TOTO株)
 E 坂田 拓磨 (バスケット部部長/トヨタ自動車株)
 I 田中 伶奈 (ハンドボール部女子チームキャプテン/
 株トヨタプロダクション エンジニアリング)
 C 上田 智也 (高専祭パートリーダー/九州大学進学)
 A 井上 安南 (吹奏楽部部長/専攻科進学)
 司会: G科 嘉藤 直子



司会: 嘉藤

司会 今日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。最初に、皆さんの名前、学科、課外活動、進路などを教えてください(上記のとおり)。それでは、まず、高専生活の中で最も印象に残っていることを教えてくださいませんか？

M末永 5年の高専祭ですね。ピタゴラスイッチのパートリーダーだったのですが、過去のピタゴラスイッチはほとんど成功していなかったで、とてもプレッシャーがありました。また、その準備と並行して、機械科の学科紹介の動画もほとんど自分一人で作っていました。この夏は、今まで生きてきた19年間の中で一番忙しくて…。でも、高専祭ではピタゴラスイッチが2回成功しました。6年ぶりの快挙らしくて、達成感がすごかったです。また、動画も思った以上に反響があって、「DVDないですか？」という人もいました。YouTubeに上がっているの、皆さんもぜひ見てください。

E坂田、I田中 見たよ。(笑)

E坂田 個人としては、球技大会が印象に残っています。5Eとしても球技大会には一番力を入れていました。朝練したり、昼休みも練習したりして…。その結果、優勝や最優秀賞がとれたので良かったです。高専祭では、ラブマゲドンをしたのですが、皆さんの反応が良かったです。成功できてうれしく思っています。

I田中 私は部活です。キャプテンを経験することができたこと、先輩や後輩、友達が高専の中で増えたことです。それから、研修旅行も印象に残っていますし、教室でいつも友達と笑っていたことも印象に残っています。

C上田 自分も5年の高専祭が一番印象に残っています。今年の高専祭では雑貨パートリーダーになりました。本当は夏休みから計画を立てて取り組んでいこうとしたのですが、自分が大学受験だったため、あまり取り組めなくて、周りに迷惑をかけてしまいました。しかし、夏休みが終わってからは、みんなで集まってしっかりと取り組めたので良かったと思います。また、今年、新たな取り組みとして、みんなにプラ板を作ってもらおうという体験コーナーを設けました。それも好評だったので良かったです。



A 井上さん

A井上 私は吹奏楽部のことが一番印象に残っています。先輩や後輩、同級生とも大変仲良くなりました。卒業してからも集まって遊ぶだろうなと思うぐらい仲良くなれたので…。それから、高専祭のパートについても、今までは部活があったのであまり参加できなかったけれど、今年ほとんど参加できました。高専祭の最後に、パートのみんなで集まって、一言ずつ話をした時に、泣く人が出るぐらいでした。楽しいパートだったと思います。

司会 みなさん良い思い出がいっぱいですね。そういえば、皆さんは、人をまとめる立場、つまり、リーダーや部長や寮長などを経験さ

れていますね。人をまとめる上で、難しかったところと良かったところを話していただけませんか？

E坂田 キャプテンとして大変だったのですが、僕は感情をむき出しにして話をしてしまうタイプなので、その後に練習を再開する時は、気まづくなって、後悔することがありました。悪くなった雰囲気の良いことが難しかったです。良かった点としては、キャプテンになったことで、仲のいい人が増え、自分を受け入れてくれる人もできました。また、担当の先生と仲良くなれたことも良かった点です。

I田中 私は、みんなと仲良くて…。だから、部長として言わなければならない時、私はそれが苦でした。だけど、後輩たちが「ちゃんとやろう!」と盛り上げてくれました。よりいっそう絆が深まったと感じています。



C 上田君

C上田 難しかったことは、高専祭でパートの人たちに指示を伝えるときに、うまく伝わらなかったことです。また、指示をしてもやってもらえなかった時に、その人たちに言わずに自分でやってしまう癖があったので、その時に苦労しました。良かったこととしては、パート内で連帯感が生まれて、みんなでやっていけたことです。

A井上 部長をしていて良かったことは、慕ってくれる後輩や、悩みを真剣に考えてくれる同級生ができたことです。難しかったのは、私の部活は個性が強く、一度騒ぎ始めると収拾がつかなくなって話を聞いてくれないので、それを聞いてもらうために奮闘しなければいけなかったことです。

M末永 寮長をしていて一番難しかったのは、寮生活の不満を解消するために、新しいことに取り組んだことです。寮長になって、いろいろと新しい計画を立てました。例えば、寮では、1年生が指導寮生にとっても大きな声で挨拶をする風習があります。あれをなくそうとしたんですよ、僕は…。だから、最初に、指導寮生に、こういう意図で今年からやめてくれないかなと伝えて、1年生が大きな声で挨拶することをやめさせました。しかし、年度の終わりの方では、指導寮生が1年生の指導をしづらくなったようです。だから、結局、指導寮生の判断で、この挨拶を再開することになりました。このように、新しいことを取り組んでいくのもそんなに簡単ではないなと、上の立場になってみて痛感しました。

良かったことは、些細なことですけど、みんなに名前を知ってもらえたことです。みんなに名前を知ってもらえたおかげで、気楽に寮に対する不満などを伝えてもらえました。

司会 次に、各学科の自慢を聞かせてください。

M末永 高い就職率というのが一番の自慢です。機械科に入ってきた学生は、就職率がいいから機械科を選んだという人が少なくないですよ。あと、クラスのことという、機械科は男ばかりなので、その分、気兼ねなくみんなと話せるというか、あまり意識する異性がないので、その点はみんな楽に過ごしています。みんな仲が良くて、よ

い雰囲気学科だと思えます。

E坂田 電気科も就職率がいいのは強みですね。電気科は500社ぐらい求人があるので、一人当たり10~20社選べます。そこがいいと思えますね。あと、結構仲がいいですね、電気科も。イベントとかに力を入れることができるので、その点はとてもいいと思えます。あと、修己館が近いですね。だから、しょっちゅう行きます。売店の人も、とても仲がいいです。



I 田中さん

I田中 情報は、先生たちがみんな話しやすいので、相談もしやすい先生が多いので、そういうところがいいと思えます。勉強は、それこそ電子情報工学科なので、情報だけでなく電気回路・電子回路など、幅広くしています。その点で、就職は情報系と電気系のどちらからでも選べるので、就職の幅が広いと思えます。それから、情報棟はエレベーターもありますし、自動ドアもあるし…。きれいでないですけど、他の学科よりは、少し先をいっているかなあって。

M末永、**E坂田**、**C上田**、**A井上** え〜。(笑)

C上田 C科は卒研の評価が厳しいです。納得いくまで再発表させられるので、それでかなり鍛えられます。だから、C科の卒業生は、企業の方からもプレゼン能力が高いという評価をもらっています。それから、2年までは一般的な化学の実験がありますが、3年以降は専門的な実験が入ってくるので、化学が好きな学生にとってはとても面白いと思えます。あとは、実験の機器の使い方などもしっかり学べるので、社会に出てからも役に立つし、そこは強みだと思えます。

A井上 建築は、他の学科に比べて、出かける授業が多いと思えます。研修旅行で建物を見に行く以外に、授業でも、設計をする土地を見に行ったり、参考になる建物を見に行ったりします。建築は、絵が好きな人とか図工が好きな人が向いていると思えます。3年に入ってから、模型を作ったりすることが多くなるので、楽しいですよ。

司会 高専での5年間で、自分が成長したと思うことは何ですか？

M末永 物を作るのがうまくなりました。最近、こういうのが欲しいと思ったときに、まず自分で作れるかどうかを考えます。作れそうなら、実際に作ったりしています。ものづくりに対する意欲が成長したなと思えます。

E坂田 少しだけ気が長くなりました。精神的に成長したと思えます。1、2年の頃は、自分のことしか考えてなくて楽しかったらいいなと思ってたけど、学年が上がるにつれて、これではいけないと考えるようになりました。最終的に上の学年になって、キャプテンになって、責任ある立場になった時に、子供のままじゃダメだなと思いました。

M末永 そうだよな。

E坂田 少し大人になったと思えます。まだまだだけど。

C上田 自分が成長したと思うことは、計画の立て方がうまくなったことです。例えば、卒業論文の要旨の締切から考えて、何日までに実験の結果を出しておく必要があるとか、何日までに担当の先生に論文を見せなければならないとか。あと、5年間で、実験の考察の仕方が成長したなと感じています。特に、3年の時と比べて、5年では考察能力が相当ついたと思えます。

A井上 自分は、きちんと連絡をしたり、細かく報告することが身についたと思えます。例えば、部活休みの連絡とか、今はこれをしているから次はこれをするよという連絡とか。あとは、しなければならぬときにはちゃんとやって、気を抜くときには気を抜くというのが、少しずつはできているかなと思えます。

I田中 部活を5年間行ったことで、後輩や先輩との付き合い方が身についたと思えます。また、高専大会や違う地域の人々に関わることで、その人たちから影響を受けて、自分の足りないところなどを見直

せるようになったことも成長の一つだと思えます。

司会 後輩へのメッセージをお願いします。

M末永 英語の勉強をしたほうがいいと思えます。自分が5年間で唯一後悔していることは、英語の勉強を怠っていたことです。有明高専はシンガポールの方とかいろいろな人たちがきて、国際交流するにはとても良い機会がたくさんあります。その時に、少しでも英語がしゃべれていたら、いろんな人たちとコミュニケーションが取れて、今までとは違った刺激を受け、もっと活気のある学校生活ができると思えます。そう考えたら、英語は怠らずに勉強していた方がいいと思えます。

E坂田 英語は自分も思えます。今も苦しんでいるので。あとは、頑張らなければならない時には、頑張った方がいいですね。そうしないと苦労しますね。ほどよく頑張ってください。

I田中 私も英語です。4年生の時には、周りの人から影響を受けて、留学とか考えたりもしました。留学など、学生のうちにしかできないことがたくさんあると思うので、学生のうちにできることはやっていたほうが絶対がいいと思えます。夏休みも長いしね。

C上田 英語もそうなんですけど、何か一つでもいいので、目標をもって取り組んで、それが達成できるくらい頑張ってください。あとは、やるべきことをしっかりやって、気を抜くときは気を抜いてというふうにけじめをつけてやってほしいです。

A井上 英語は、私もいると思えます。私も苦しんだので。慣れることが大事だと思えます。それから、先生たちと、もっと仲良く話してほしいなと思えます。普段から話していたら、先生たちからいろんな情報をもらえたりして、授業などにも役立つと思えます。

司会 最後に、自分の人生の目標、もしくは、卒業後にやりたいことでもいいです。これから先の話聞かせてください。

C上田 人生の目標としては、研究者になることが目標です。最終的には、ノーベル化学賞をとれるような、人に役立つものを作りたいなと思っています。

A井上 目標は、働いてお金を貯めて旅行をすることです。日本中を回りたいです。おいしいものを食べたりとか。あと、そこにいたいと思えるような建築物を造ることです。

I田中 私もバリバリ働いて、自分のやりたいことやって、趣味を増やして行って、人との関わりを増やしていきたいと思えます。

E坂田 僕も趣味を増やしたいですね。趣味を増やすと人脈も広がると思うので、楽しく生活できてると思っています。自分がやりたいことをやりたいです。

M末永 もっといろんなことに積極的に挑戦していきたいなと思えます。まず、今回、高専生活では、積極的に上に立つ立場に挑戦してみました。本来、得意なことではなかったのですが、積極的に挑戦してみました。苦しいことができるようになると、自分の中で良い方向にどんどん進んでいける気がしています。これからも、できないことができるようになることと、機械科出身として、もっとたくさんの物を作りたいなと思っています。自分の中で技術力をつけていきたいなと思っています。

司会 皆様のご活躍を期待しています。今日は、いろいろな話を聞かせていただきありがとうございました。



M 末永君



E 坂田君

特集

有明高専生の活躍2014

各種コンクールでの入賞や地域での活動を紹介します。

演算増幅器設計コンテストについて

4E 山田 教太

11月10日に行われた平成26年度演算増幅器設計コンテストの審査会において私と41谷口君はそれぞれ試作の部の敢闘賞、努力賞という評価を受け、12月5日に東京工業大学大岡山キャンパスで行われた発表会に参加しました。

演算増幅器設計コンテスト、通称「オベコン」とは、応用科学学会主催によるアナログ集積回路の設計力を競うコンテストで、平成14年から毎年続く権威ある大会です。授賞者一覧には名だたる学校の名前が並んでいる中、本校は平成23年以降、毎年受賞者を出してきました。今年度でその記録が途切れるということがなく、本当に良かったです。また、専攻科生ではない本科生が発表会に参加することは本校にとっても初めてのことだということで、非常に光栄です。

私たちが入賞した試作の部は、コンピュータ上での仮想の数値を競うシミュレーションの部とは異なり、実際に設計した

回路の素子の配置まで考え、それを工場に委託して作成してもらい、測定用の機器で性能を測る、というところまで自らの手でやらなくてはなりません。そのため、とても長い時間を必要とします。正直に言って、オベコンに参加したことを後悔するような時もありましたが、今となっては良い経験を積むことができた心からそう思っています。

今回、私は一応の結果を出すことができましたが、発表会での他の参加者の皆さんのプレゼンを聞き、自分の実力不足を痛感しました。来年度のオベコンでは、もっと性能の良い回路を設計してより高い評価を受けることを目指し、慢心することなく努力を重ねていこうと思います。



演算増幅器設計コンテストの入賞について

41 谷口 幹

今回、私は平成26年演算増幅器設計コンテスト・試作の部で入賞しました。入賞の知らせを聞いた時は、まさか私が入賞できるとは思っていなかったのでも驚きました。それと入賞の喜びを感じました。

コンテストに参加した当初、私は回路設計の知識が全くありませんでした。「設計した回路は動くのか」「そもそも期限内に設計できるのか」などの不安がありました。ですが、先生や先輩方の丁寧な指導、サポートのおかげで無事に回路を設計することができました。また、作成された回路を計測した際は先生と先輩方に大変お世話になりました。

知識ゼロからの挑戦、設計ソフトのエラー、休みを返上しての回路設計など、大変なことは色々ありましたが、自分の

設計した回路が実際に動いてくれて良かったです。初めは計測機器の不良で回路がうまく動かなかったということもあり、動いた時の喜びは大きかったです。

今回のコンテストでは多くの人に助けられました。皆さんの協力が無ければコンテストで受賞することはできなかったと思います。本当ありがとうございます。

次回は今回より上の賞を受賞できるように頑張っていきます。



GPS・QZSSロボットカーコンテスト表彰について

5M 嘉久志 太佑
5M 酒井 崇彰

私達は10月18日に東京海洋大学越中島キャンパスで開催された「第8回GPS・QZSSロボットカーコンテスト」の「ダブルパイロンレース」という競技に出場しました。

この競技では、ロボットカーがGPS衛星からの信号を使って現在地を測りながら自律走行しなければならないため、思うように動いてくれず直前までギリギリの調整となりました。メンバーの酒井君と協力し合い、時には先生のサポートもいただきながら製作し、何とか本番前に自律走行するところまでは仕上がりました。

大会では他の選手も制御に苦労しているようで、ほとんどのチームが迷走していました。私達も始めはGPSの信号を捕捉できず迷走していましたが、再起動を試みリトライさせると、しっかりとGPSの信号を捕捉し走行しはじめました。しかし、半周走行したところで時間切れとなりました。全試合終了後、希望者にはリトライが認められ更なる高記録を目指して再挑戦

しましたが、GPSを捕捉できず迷走しました。入賞は諦めていましたが、2台のうち1台が3位入賞という成績をおさめることができました。

これからの時代、ロボット産業が発展していく上で、今回のようなシステム開発はとても貴重な経験となりました。GPSロボットカーのシステム技術を応用すると近い将来、車の自動走行なども可能です。

この分野の発展のために来年も是非、後輩達が引き継いで欲しいと思います。



設計競技で入賞して

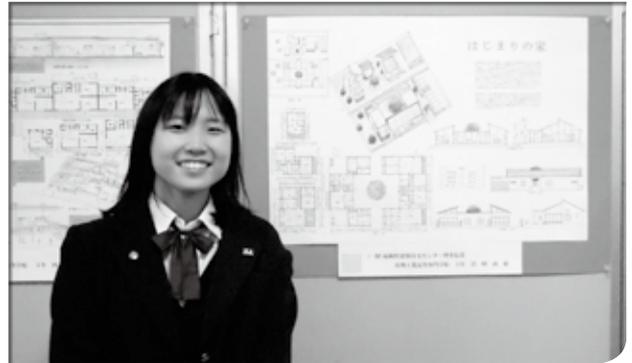
3A 宮崎 由衣

平成26年度の福岡県建築士事務所協会主催の建築設計競技の課題は、「自然災害に備えての仮設住宅」でした。その課題に対して私は、震災の予防や対策に加え、豪雨等の自然災害を想定して計画を進めていきました。最初はアイデアがまとまらず、自分が何をコンセプトとした仮設住宅にしていけるのか、迷っていましたが、先生方のアドバイス等をいただいて、試行錯誤を重ねていくうちにアイデアがまとまってきました。そして、自分が伝えたいことははっきりするようになりました。

そして私は、「はじまり」をコンセプトとした仮設住宅の設計を行い、平面図やパース等の図面を仕上げました。

設計競技に初めて取り組むことで、使う人のことや住む環境を考えて設計することはとても難しいけど、自分が考えたアイデアを形にすることができて、私はとてもやりがいを実感することができました。

この設計競技で福岡県建築住宅センター理事長賞をいただきとてもうれしく思いました。これからも住む人のこと、使う人のことを考えて設計に取り組んでいきたいと考えています。



まちづくりの提案で特別賞の受賞

4A 三栗野 鈴菜・吉川 みくる・兵藤 安季紗
6A 國丸 慶太郎・百田 直美

私たちは、建設コンサルタンツ協会九州支部主催の「夢アイデア～まちづくりの提案～」に応募しました。この企画は、自分たちの思い描くまち、地域像に対する夢やアイデアを具現化することでよりよいまちづくりを目指すものです。

私たちの応募作品「球形で休憩」は、これからの自分たちに関係するだろうオフィス街に心休まるオアシスを作ろうという提案です。これは、インターシップで自分たちが直に感じた「休憩時間にゆっくり休みたい」という思いから生まれました。

提案した建物は、夏は避暑地、冬は避寒地として快適に過ごせるように建物自体が変化する仕組みになっています。中央に上下する床を置き、空気の特徴を生かして、より涼しい、より暖かい空間を作り出します。

この作品は5人で話し合いながら作り上げたのですが、空間のイメージや言葉や絵で伝わりにくい部分がうまく共有できず、作品を纏め上げる上ではとても苦労しました。

幸いにも、今回、特別賞を受賞でき、うれしく思っています。夏休みから時間をかけ、話し合った時間がかけがえのないものになったと思います。また、授賞式では、最優秀賞などのプレゼンテーションを聞くことができ、自分たちとは違うまちへの思いや夢に感銘を受けました。さらに、九州の学生主体の現在進行中のプロジェクトに携わっている方々と交流を持ち、情報の場や自身の見聞が広がります。



ボランティア同好会の活動

5A 幸田 慎ノ介

私達ボランティア同好会の活動の一環である高齢者の生活を支える活動が平成26年10月の西日本新聞朝刊に掲載されました。

有明高専のある大牟田市は、かつて炭鉱で栄え、閉山後は厳しい地域社会経済の状況下にある地方都市です。高齢化率は約33%（2014年10月現在）と高く、「炭鉱で栄えたまち」から「人にやさしいまち～福祉でよみがえるまち」への転換を迫られています。そのような地区で生活するには、若者たちが地域へ積極的に入り込み、主体的に関わっていくことが必要不可欠となります。学生と地域との交流の機会をつくることを目的に、本校のボランティア同好会は7年前に発足しました。主に大牟田市内の諸団体から要請を受け、自主的に活動を行っています。現在5年次から1年次まで35名の学生と、顧問の焼山先生、阿嘉先生が参加可能な範囲で活動に取り組んでいます。

活動の中心は、高齢化の進む地域での先進的な取り組みがなされている大牟田市駿馬南地区です。この地区では、地域の方々が一丸となって地域住民による自主的なさまざまな取り組みがなされており、私達には貴重な体験の場となっています。

これからも、積極的に地域に溶け込み、地域住民との絆を強めていきたいと考えています。このことにより、ボランティア同好会としての活動の幅が広がっていくことを強く願っています。



シリーズ 人物・いま

退職教職員

平成27年3月をもって退職される6名の教職員に、次の3つの質問に答えていただきました。
Q1 高専で最も思い出に残ることは？ Q2 高専あるいは学生に望まれることは？ Q3 今後のことについて一言



建築学科 教授
北岡 敏郎

- A1 後悔することはたくさんありますが、自分なりに思いっきり研究できたことです。それと、建築学科で他大学高専に誇れる独自の高専教育を進めることができたことです。詳しくは50周年記念誌にのせていますが、わかりやすく言うと、若い年令の諸君だからこそ意味のある「理論を実践的に認識する専門技術教育」を目指してきました。そのため、数々のカリキュラム改訂や建物改修計画、専攻科教育等において、建築学科の独自性を貫き得たと思っています。
- A2 有明高専の独自性、各学科の独自性を強く打ち出すこと。そして、学生諸君はそれを誇りにしてその志を強く持って欲しい。
- A3 さあ、どうでしょう。ただ言えることは、生活の転換点ではありますが、これまでとつながって一貫したといえる人生を送りたいと思っています。



建築学科 教授
髙 敏和

- A1 着任した年、つまり9年前に、5A教室の扉に貼り付けた、貼り紙「最終退室者へ ■空調は切りましたか？ ■照明は切りましたか？ ■窓は閉めましたか？ ■最後に、扉を閉めましょう！」が未だに残っていることでしょうか？誰もが魅了するような出来事ではないかもしれませんが、学生の道徳心の高さを物語っており、これからも忘れることはないと思います。
- A2 学生には、「元々、能力があるのですから、単位を取ることや、卒業することばかり考えずに、できるだけ多くのことを学びとってください。結果は後からついてきます。」といたいですね。また、高専は、大学並みを指すのであれば、職名に応じた大学並みの要件を身につけることが大切だと思います。卑近な例で恐縮ですが、小職の論文博士でさえ、第一著者で、海外の査読付き論文を3編以上もっていることが要件の一つでしたから、「職名に応じた大学並みの要件」とは推し量るに容易いことだと思います。
- A3 我々のような世代の民間企業等職務経験者は、20才代のとき、今では想像がつかないような過酷な労働をしています。その反動があるのかもしれませんが、定年を迎えたら、趣味の釣りをしたり、孫と遊んだりして、しばらくはゆとり過ごしたいと考えています。ただ、じっとしていられない性格なので、また何かやるでしょう。最後に、遠くから、有明高専のご発展をお祈りしております。



一般教育科 教授
徳田 仁

- A1 八代高専のグラウンド横のトイレで涙を流したこと。有明に赴任後、素人の私がラグビー部の顧問を務めた。九州大会で初戦6連敗を重ねた後、昭和61年、八代での対大分高専戦で辛勝した。ノーサイドの笛とともに思わず涙が溢れ出した。ベンチの部員に涙を見せまいと、グラウンド横のトイレに駆け込み、嗚咽した。ベンチに戻り、7年目の快挙を選手と一緒に喜んだことを、今でも鮮明に覚えている。
- A2 たくさん本を読んでください。本と対話することで自分の殻を壊すことができます。固定観念から脱却できれば思考の多様性が生まれ、自分の価値感も変わり得ます。柔軟な心で他者と接すれば、自分とは違う他者も受容できます。読書の効用は心の余裕を養えることです。
- A3 購入して、つん読だけの本を少しずつ読んでいきます。古今東西の作者たちとの対話を楽しみにしています。研究活動ではイギリスロマン派のエッセイストたちの時間意識を調べて公表します。



一般教育科 助教
福田 尚広

- A1 学生の元気の良さにはびっくりしました。日々、学生と一緒に楽しく授業ができたことが、有明高専での一番の思い出です。
- A2 何事にも本気で取り組んで欲しいと思います。本気で取り組むからこそ感じること、得られるものがあります。また、挨拶・掃除をきちんとできる学生になって欲しいです。
- A3 松江高専に転動します。これからも自分らしく、色々なことにチャレンジして行きたいと思っています。有明高専にはまた必ず遊びに来るので、みんな僕のこと忘れないでね♪



総務課 課長補佐
奥苑 登志子

- A1 昭和48年に一般科目（現一般教育科）の学科事務として採用されました。当時は学生さんと同年代ということもあり、高専祭・体育祭・予餞会のお手伝いをしたことがとても懐かしい思い出です。それから、工業化学科・総務課・庶務課・学生課と異動し、平成18年に学生係長に昇任させていただき、その年の九州沖縄地区高専体育大会の主管校として、当時の学生主事室・学生係のみなさま、そして、教職員・学生の皆様のご協力により無事開催できましたこと、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。
- A2 私の母校（小・中・高）はすべて、少子化の影響で統廃合されてしまいました。有明高専だけは私の「母校」として「永久に不滅」でいてほしいですね。
- A3 皆様に支えていただき、大過なく定年を迎えることができましたことに感謝し、今年始めたばかりのお抹茶を点てて、ゆっくり今後のことを考えたいと思います。



総務課 調達管理係長
上田 隆二

- A1 全国大会で釧路へ行行ったことが思い出にあります。それまで旅行するには新幹線しか使ったことがなく初めて飛行機に乗りましたので、離陸と着陸の際、生きた心地がしなかった記憶があります。最近では、慣れてしまって、離陸と着陸が大好きになりました。
- A2 50周年は終わりましたが、今後も100周年に向けてなお一層の発展を望んでいます。
- A3 外国旅行とか、好きなことをして過ごせたらいいなと考えています。

永年勤続表彰

永年勤続20年の4名の教職員の方に、思い出などをお聞きました。

Q1 20年間の一歩の思い出 Q2 20年前と今について Q3 学生に一言



電気工学科 教授
石丸 智士

- A1** 長いようで早かった20年、専攻科が設置されたり、大規模な改修があったり、それから担任や部活動顧問等々、良いことも悪いこともいろいろなことを経験しました。その中で思い出はたくさんありますが、「一番」というのは、難しいですね。まあ、毎年たくさんの学生と出会えたことが一番でしょうか。
- A2** すごく便利な社会になりました。20年前は携帯電話やパソコンも普及していませんでした。その分、人とのつながりは濃かったような気がします。私自身は、この20年間で着実に重くなりました(体重?)。スリムになるように頑張りたいと思います。
- A3** 人との出会いを大切に、人を思いやる心をもって欲しいと思います。それから、目標を持って今のうちにしっかりと勉強してください。将来きっと勉強した経験が生きてと思います。



電気工学科 准教授
河野 晋

- A1** 20年間の思い出はたくさんありますが、平成14年に研究員としてアメリカで1年間、家族3人で生活したことは本当に良い思い出です。素晴らしい教授の下で行うことができた研究活動はもちろんですが、普段の生活でも初めての素晴らしい経験をすることができました。慣れない英語でコミュニケーションし、銀行口座を開き小切手帳をもらい、バックヤード付の一軒家を借り、小切手で毎月の家賃を支払い、左ハンドルの車を買って、運転し、買い物・旅行に行き、家族ぐるみで付き合える友人ができました。これらの経験を通じて家族みんなが大きく成長できたと思っています。
- A2** 20年たった今、まず、体重がだいぶ増えました。また、高専を取り巻く状況の変化と、年齢に応じた仕事量になった(でも要領良くこなせていない)ことが原因だと思いますが、以前に比べて、一日一日があつという間に過ぎていく気がします。仕事と体重をうまくコントロールできるように頑張っていきたいと思っています。
- A3** 勉強でも遊びでもやるときは一生懸命に取り組んで、メリハリのある毎日を送ってほしいと思います。また、いろいろなことに積極的に挑戦し経験値を上げてください。



電気情報工学科 准教授
嘉藤 学

- A1** クラス担任、授業担当、バレーボール部顧問等として、多くの思い出があり、どれが一番かを選ぶのは難しいです。2年程前に病気で約一か月半の間、入院した時期があり、ご迷惑をかけたのですが、教職員、学生のみなさんに心配していただき涙が出るほどありがたかったことを思い出します。これは私にとって良き同僚と学生達に恵まれて支えられていることに気付かせてくれた経験でした。みなさん、いつもありがとうございます!
- A2** 24歳で赴任してきましたので学生と感覚や気持ちも近かったと思います。当時は、昼休みに学生とテニスをしたり、教職員の方とバドミントンをしたりと時間的な余裕もあり、研究、部活動、授業の準備など一つのことを時間をかけて取り組んでいました。多忙な現在ですが、工夫をしながら、学生と一緒に楽しみなから過ごしたいと思います。
- A3** 学生のみなさんには無限の可能性が秘めています。自分の可能性を信じ、夢や理想を持って高専生活をして人生を切り開いていただきたいと思います。応援しています。



教育研究技術支援センター
萩島 真澄

- A1** 1歩の思い出は20年前です。まさか授業のサポートをするとは思っていませんでしたので、採用されてすぐ何の準備もできていないままでしたので、学生さんにも先生方にも迷惑をかけたことを思い出します。
- A2** 20年前は公衆電話等から番号をプッシュしてポケベルで連絡を取っていました。その後PHSから携帯へ変わり、通信手段(携帯電話)の性能が格段に進歩しました。けど私はまだガラケーです。が、もう少し時代の流れにのんびり行こうと思っています。
- A3** やはり学生の本分は勉強です。ただ授業に出て勉強するのではなく、自分のためにしっかりと勉強してください。息抜きも必要です。同じくらいしっかりと楽しんでください。

留学生

卒業を控えた留学生に、思い出などを書いてもらいました。



5M
アハマドズルフィアリミン
(ズル)

私は小さい頃からエンジニアになりたいと、日本で留学する機会をいただきました。日本は文化や技術などにおいて優れている国で、留学するなんてとても夢のようでした。

2012年に有明高専の機械工学科に編入し、人生の中に新しいエピソードが始まりました。あの頃、日本語がまだうまく伝えられなかったし、生活もとても大変でした。学校が始まると、授業や宿題など全て日本語でしなければならぬ困ったときもありました。チュータの学生や先生方からいつも優しく教えてもらい、勉強が楽になりました。

やっぱり夢を叶えることは坂道を登ることみたいでどんな大変でも上まで登らなければなりません。勉強のこと以外で弓道部や高専祭などの思い出ができて、きついつつでも忘れません。この3年間はずっと良い思い出ばかりではなくて、苦しい思い出もあります。この苦しいことのおかげで、人生において成長できると思います。

有明高専を卒業後、佐賀大学に編入します。佐賀大学で夢を叶えるための道を歩きながら頑張りたいと思います。この学校でいろいろな方にお世話になりました。日本、有明高専に来て良かったと思います。本当にありがとうございました。



5C
ハバ リナ
(ホソー)

私が通っていた高校は日本とモンゴルの合弁学校だったので、日本人の先生が何人かいて、その先生たちから日本についての話をいっぱい聞いていました。それがきっかけで日本にだんだん興味を持つようになり、いつの間にか日本に留学したいという希望が出てきました。それで中学校の頃から化学が好きだったため、国の発展に活躍できる技術者を目指して日本に留学しました。

有明高専の物質工学科には2012年に3年生として編入しました。高専に来た最初の日は、先生や先輩、そして多くの人々が心温かく迎えてくれたことが思い出されます。ここで過ごした3年間では、勉強の面でも生活の面でも、多くのことを学びました。寮生活や高専祭、体育祭などの学校行事をはじめ、地元の小学生たちとの国際交流といった良い思い出を作ることができました。時には辛いこともあり、落ち込んだりすることもありましたが、先生方や同じ留学生の皆さんや事務の方々に支援していただき、無事に卒業します。だから、後悔することなく、学んだことを次に進む道に活かしていきたいと思っています。本当に皆さんに感謝しています。大変お世話になりました。ありがとうございました。

2014 アラカルト

シンガポール・ポリテクニク校学生来校

国際交流委員会 河野 晋

12月12日(金)～21日(日)に本校が姉妹校協定を結んでいるシンガポール・ポリテクニク(SP)から11名(学生10名、引率1名)が交流のため来校されました。13日(土)～14日(日)は、本校学生の家でホームステイ(1泊2日)を体験しました。滞在中、学内ではキャンパスツアー、授業参加、研究室訪問、部活動体験、寮生との交流会などに参加し、学外では、太宰府天満宮、熊本城、万田坑、陶芸教室での体験などに参加しました。20日(土)は博多周辺を本校学生と一緒に散策し、翌21日(日)帰国の途につきました。

今回の来日での交流や体験がSPの皆さんにとって良い思い出になってくれたらうれしく思います。また、本校学生にとっては、今回の交流は大変良い刺激となって今後の学生生活に大きな影響を与えてくれることになるでしょう。



学校説明会



8.23-24 オープンカレッジ 進路相談



9.6 久留米・有明・佐世保3高専合同説明会



9.13 熊本地区説明会



9.20 入試説明会



9.20 校内見学会



9.20 校内見学会



9.27 久留米・有明・北九州3高専合同説明会



10.3 学習塾説明会



10.4 粕屋説明会

第9回エレクトロニクスものづくり体験教室 (楽しいロボットプログラミング!)

1科 石川 洋平

平成26年12月13日(土) 電子情報工学科にて毎年恒例となった第9回エレクトロニクスものづくり体験教室(楽しいロボットプログラミング! -ライトレーサーを作ろう-)を開催しました。大牟田市近郊の小中学校から38名(保護者を含め60名)が参加してくれました。定員を大幅に越えたため初めての2クラス同時開催となりました。

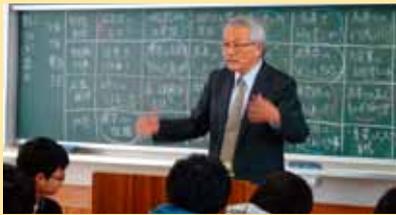
今回も、黒の線を追っていくライトレーサーというロボットにコンピューターから指令を送ること(プログラミング)に挑戦してもらいました。前面にもう一つセンサーを増やして障害物があると止まったり回避したりする応用にも挑戦してもらいました。

さらに、昨年イオンモール大牟田にてイベントも開催し、さらに多くの子供たちにコンピュータプログラミングの楽しさを伝えています。本取組は共催として電子情報通信学会九州支部、後援として大牟田市教育委員会にご支援いただいております。



1年生進路セミナー 11月4日(火)~7日(金)

大坪 正彦氏(本校キャリアコンサルタント)



3年生進路セミナー 10月21日(火)



M科 原田 義史氏



E科 中溝 栄次郎氏



I科 遠藤 剛氏



C科 幸田 精一郎氏

4年生進路セミナー

1月16日(金)



大坪 正彦氏(本校キャリアコンサルタント)

専攻科1年生キックオフミーティング 11月13日(木)



橋本 圭司氏(西日本旅客鉄道株)



榎岡 杜樹氏((株)エスパス建築事務所)

5年生・専攻科2年生進路セミナー

12月2日(火)



大塚 陽一氏(福岡県若者しごとサポートセンタービジネスマナー講師)

今回は、機械工学科の原模 真也先生と電気工学科の高松 竜二先生の研究室を訪ね、お話をうかがいました。

原模 真也 研究室(機械工学科)

原模先生といえば登山が思い浮かぶのですが、息抜きはやはり登山ですか？

専らクラブ引率での登山が多いですね。引率しながら息抜きしていることになるのでしょうか？登山の魅力それは遺伝子に聞いてみないと分かりませんね。有史以前より人類は長い間自然の中で暮らし、自然に適応するよう進化してきました。皆さんもその遺伝子を持っていると思います。後は、何時その遺伝子がONになるかですね。

さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

「マルチエージェントシステム型ロボット運動制御」について研究しています。簡単に言いますと現在のロボットはその構造に合わせて制御計算プログラムが作られています。ロボット構造が複雑になれば計算式も難しくなり、場合によっては解法式が求まらないこともあります。

これに対して私のアイデアはロボットの各部毎に計算処理を分けて、ロボット構造に合わせてこれらを結合するだけでロボット制御ができると言うものです。これまで100関節を超えるロボットや手先と関節を同時に制御することもできていますよ。

現在の研究を始めたきっかけを教えてください。

最初は大学の先生と「金型の自由局面加工」の研究を行っていました。研究の中で5軸工作機械を使う機会があり、その使い難さに疑問を持ち5軸機械の制御研究を勝手に始めたのがきっかけですかね。その後、長い間試行錯誤を重ねある時ふと出たのがいろいろな機械の制御に適用できる現在のアイデアでした。

研究で心がけていることをお聞かせください。

複雑な問題を複雑に解くのではなく、問題の本質を捉え何か簡単な解法がないか考えたり調べたりすることを心がけています。解法となるヒントは案外別の分野に転がっていることが多いと思います。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

これまで理論ばかりの研究を行っていましたが、これからは実機ロボットを開発して私の理論を使って実際に動かしたいと考えています。既に進めてはいますが。

最後に、学生へのアドバイスをお願いいたします。

ロボットは機械工学だけでなく、制御のための数学、ハードウェアそれにプログラミングの技術が必要です。他の分野も同じく様々な技術で成り立っています。いろいろなことに興味を持ち、実際に手を動かし、自分で考え一つ一つ身に着けて行って欲しいですね。

高松 竜二 研究室(電気工学科)

1年間人事交流で佐世保高専に行かれていましたが、研究室はどのような雰囲気でしたか？

研究室は人事交流ということもあって学生も2名で場所も他の研究室の小さなスペースを間借りさせていただきました。佐世保高専では、面接の練習や履歴書の添削は卒研の指導教員がすることになっていて、最初の方は研究よりも就職指導しているような感じでした。

学校全体としては、昼休みの放送が大きく違いました。佐世保では、学生の呼び出しなどは緊急時以外、掲示板で行っていたので、有明のように昼休みに放送がなることがあまりなかったです。

さて、現在の研究テーマとその概要を教えてください。

学生時代に配属された研究室が味覚や嗅覚のセンシングを行っているところで、その関係で現在も味覚センサに関する研究を行っています。味を測ることができれば、食品の品質管理や製品開発にも応用できますし、データ化することで、何百年後でも、同じ味を再現することが可能になります。現在は、センサデータの新たな処理方法の検討や他の計測手法による味覚のセンシングに関する研究を行っています。

また、半導体光触媒に関する研究も行っています。光エネルギーを使って環境浄化を行うものです。

研究者になろうと思ったきっかけを教えてください。

もともと、高校の頃の希望は教員でした。結局、授業や部活など忙しい大学生活で教員免許は取れず、企業に就職しようとしていたところ、研究室の先生から有明高専の話をいただいたのがきっかけです。

研究で心がけていることをお聞かせください。

「失敗した結果も大事な結果である」ということを研究室の学生にはよく話しています。失敗した実験結果を考察することで、そこから新たなことがわかるかもしれないということです。

新たに興味を持たれていることや、これからやってみたいことはありますか？

研究では、これというのはないのですが、面白いと思ったことをやっていきたいと思っています。プライベートでは、家の庭いじりです。なかなか時間がとれなくてできないので。

最後に学生にアドバイスをお願いいたします。

勉強、部活など、やりたいことはたくさんあると思いますが、ON/OFFのメリハリを付けて、何事も一生懸命にやってください。



株式会社 東洋新薬

佐賀県鳥栖市弥生が丘7-28

聞き手: C科 大河平 紀司

今回の企業訪問では、株式会社東洋新薬に勤める佐藤美紀さん（専攻科12期、写真左）にお時間を頂き、色々なお話を伺いました。

大河平：はじめに、佐藤さんが勤めている会社の事業内容について教えてください。

佐藤：健康食品や医薬部外品の製造を行っています。ODM（設計から製造までを自社で手がけること）の形態をとっており、お客様の要望に合った商品の開発から販売の方法まで提供しています。

大河平：それでは、実際に携わっている仕事の内容について教えてください。

佐藤：品質管理課でトクホ製品のバルクの成分や化粧品の有効成分が規格を満たしているか分析を行っています。

大河平：トクホ製品はCMなどでもよく耳にするほど、私達消費者にとって身近なものになりましたね。では、佐藤さんがこの会社を志望した理由を教えてください。

佐藤：卒業・特別研究で食品の機能性素材について研究を行っており、そこでトクホに興味を持ちました。東洋新薬はトクホの認可取得数が全国1位であり、人々の健康に役立てる仕事ができると思い志望しました。

大河平：高専での研究から興味を得たことが仕事に結びついたわけですね。次に、高専生活で印象に残っていることについて教えてください。

佐藤：5年生の体育祭が印象に残っています。大人数で一つのことをやり遂げる感動は学生ならではの感想です。また、女子高専生のPRとしてA-Tech.の活動でフォーラム発表や高専女子百科を作成したこともいい経験になりました。

大河平：たしかに、A-Tech.の活動は近くで拝見していましたが、上級生を中心として積極的に活動しているイメージがあります。その遺伝子は在学生にも伝わっており、とても素晴らしい取り組みになっていますね。では、いま現在働いている中で、高専で学んだことが役に立ったことはありますか。

佐藤：分析でガラス器具を扱ったり、分析機器を扱ったりすることが多いのですが、基本的な操作、原理は高専の実験で学んでいたため業務にスムーズに取り組むことができました。また、学生時代に実験レポートや論文をたくさん書いていたので文章を書くのには困らないです。

大河平：在学生はよく「レポートしんどい！」と嘆いていますが、役に立っていると先輩が言っていたよ！と声を大にして伝えておきます（笑）社会人になってみた感想はいかがですか？

佐藤：学生とは責任の重さが違うなと感じます。学生実験では失敗しても自分のデータが取れない程度ですが、バルクの分析でミスや失敗をして結果を出すのが遅くなれば次の工程に進むことができなくなったりします。結果、工場全体に迷惑をかけてしまうことになり、大きな損失をもたらすことになる、という意識をしっかりと持たないとはいけません。

大河平：しっかりとした考えですね。では、会社側から見て求められる人材について教えてください。

佐藤：物事に対して積極的に取り組む人材が求められているように感じます。失敗することを恐れて受け身にならずに、積極的に業務に取り組み、自身で調べても解決しない問題や疑問点等はどんどん質問していくことが大事だなと思います。

大河平：なるほど、積極性は確かに大事ですね。在校生は、試験やレポート提出期限の直前だけ積極的に居室に押し寄せてきますが（笑）では、職場の雰囲気や悩みなどはどうでしょうか。

佐藤：まだ新しい会社ということもあり、社員の年齢も比較的若いです。そのためか、活気もありますし、なによりスピード感がある会社だなと思います。あと、挨拶に力を入れており、社内ではいつも元気な挨拶が響いています！悩み・・・、今のところ悩みという悩みはないのですが、社内での人との付き合い方や、話し方って難しいなあと日々感じています。

大河平：コミュニケーションの基本は挨拶！本当に大事ですね。では、最後に後輩たちに向けたメッセージをお願いします。

佐藤：社会に出てからも勉強の連続だと思います。新しいことをどんどん自分から吸収していくことが重要になりますし、高専で学んだことを業務で使う機会も多いです。学生のうちに積極的に学ぶ姿勢を身に付けておくことをお勧めします。

大河平：最後の「積極性」というキーワードは、学生にも社会人にとっても大事なことですね。せっかくなので、たまたま同席した高田さん（専攻科12期、沢井製薬株式会社）とのツーショット写真を載せておきます（笑）貴重なお時間を頂き、本当にありがとうございました。



左から佐藤さん、高田さん

ロボコン地区大会を振り返って

5M 井上 優人



これまで入学してからロボコンを続けてきた私にとって、これまでは楽しみながらやってきたのですが、今年はロボット研究同好会をまとめる部長となりました。人をまとめることがあまり得意ではない私は、これまでのように自分が担当したロボットの設計だけでなく、全体の進行度合いの把握やスケジュール管理などの仕事がたくさんあり、慣れないことばかりで大忙しでした。実際は、このような仕事ばかりではなく、やはりロボットの設計もすることになりますので、大会直前は毎日がバンク状態でチームをまとめていた次第です。

今年は、九州沖縄地区大会で良い結果を残すことができずに全国大会に行くことができませんでした。ただ、それでも、これまでつづけてきた「高専ロボコン」を最後までやり遂げることができて、さらには部長として40名の部員をまとめることができ、満足しています。部の後輩達には、「来年こそ良い結果を残してもらいたい!」と思いたいのですが、まずは「ロボコン」を思い切り楽しんでほしいと思います。せっかく、好きなロボコンをやっているのですから楽しまないと損だな、と私は感じています。

今年のロボットコンテストでの皆様からの応援、本当にありがとうございました。これからも全員で頑張って取り組んでいきたいと思っておりますので、まだまだ進化する有明高専ロボット研究同好会へのご声援を、よろしく願いいたします。

4M 原口 竜太郎

高専ロボコン2014に出場した今年、私は立候補して初めてチームリーダーになり、いろいろな経験をしました。

その一つは、5学年全メンバーをチームとしてまとめるため試行錯誤しているところと挑戦しましたが、なかなかうまくいかなかったことです。もう一つは、ロボット研究同好会のメンバーは、ロボットに対してとても愛着を持って作っており、経験値もとても高く、特に5年生は5年間ロボコンに一生懸命に打ち込んでおり、その5年間の経験がとても大事だと思ったことです。どの意見やアイデアが答えなのかは分かりませんが、経験という要素もとても大事だと思います。この経験に関しては、私より勝っている人がいますので、それらの意見をチームの考えとしてまとめることにより、バラバラだった意見が一気に同じアイデアでの製作に向き始め、やっとチームがまとまったように感じました。

そんな中で臨んだ九州沖縄地区大会では、良い結果を残せませんでした。技術職員の先生方や顧問の先生方、部員の保護者の皆様のご協力には心から感謝しています。本当にありがとうございました。

来年こそは全国大会へと、日々努力を積み重ねる所存であります。

高専プロコンに参加して

4I 熊手 圭

私達は2014年10月18日～19日に岩手県の一関市で開催された高専プログラミングコンテストに出場しました。自分たちは、自ら作ったプログラムで競技部門に出場しましたが、一回戦で負けしてしまいました。しかし、その後行われた敗者復活戦で見事勝利することができ、準決勝へ進むことができました。

課題部門、自由部門では高度な作品、オリジナリティ溢れる作品、素晴らしいアイデアによって作られた作品が多々あり、情報分野の最先端を垣間見ることが出来ました。

未来の技術者として、一高専生として、とても良い体験でした。来年も出場に向けて頑張りたいと思います。



専攻科研修旅行

6E 明石 祐嗣

11月27日(木)から28日(金)の2日間、私たち専攻科1年生は山口研修旅行に行きました。この旅行の訪問地は宇部興産、毛利邸庭園、瑠璃光寺五重塔です。今回は訪れた場所すべてが印象深かったです。宇部興産は先輩の話が勉強になりました。毛利邸庭園は池や紅葉がきれいでした。瑠璃光寺五重塔ではボランティアの方の話がおもしろく、やじろべえ構造について興味を持つことができました。宿舎ではミーティングやビンゴゲームを通じて友情を深めることができました。また夜のミーティングでは先生方の普段見ることのできないお茶目な一面を知ることができました。

研修旅行に遅刻してくる人がいたり、山口に就職している人に出会えたりと内容の濃い2日間を過ごすことができました。山口はとても素晴らしい場所でした。景色もきれいで、料理もおいしく、人柄もよく、ぜひまた訪れたいと思いました。



全国高専デザコンを通して

6A 池田 辰弥

私は「全国高等専門学校デザインコンペティション2014 in やつしろ」の構造デザイン部門に出場しました。今回の大会は、「エネルギータワーコンテスト」というテーマで、木製の腕部付きタワー構造物の架設、耐風、耐震性能の競技およびプレゼンによる審査が行われました。

今回の競技では、構造物に送風や振動を与えるなど、今までにない競技内容であり、構造物の製作条件も非常に細かく決められていたため、試行錯誤を重ねました。解析ソフトも使用して、設計した構造物の弱点を補強しながら、仮設時間を短縮するため、ほぞを用いて施工性を改善することで、送風や振動にも耐えられる構造物を作製しました。

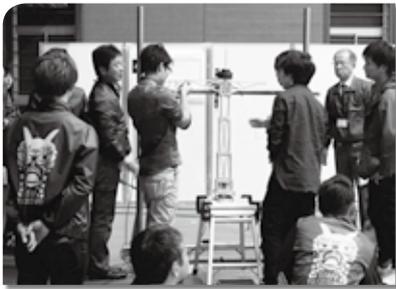
しかし、大会では耐風、耐震試験をクリアしたものの、思うように結果を伸ばすことができず、来年度へ向けて多くの課題が残りました。一方で、他の高専の様々な形態の作品を見ることにより、もっと柔軟な考え方を持って、作製に取組もうとも思いました。

今回のデザコンにおいて、建築学科の先生方および技術職員の方々には、お忙しい中たくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございました。



デザコン2014 構造デザイン部門

4A 一ノ瀬 悠輔



今年度の全国大会では、昨年度までとは競技内容が大きく異なり、タワーに風や揺れを加え変位量を競う耐風、耐震審査に加え架設時間を競う架設競技、審査員審査、重量計測を行い、その得点を競うものでした。

今年度は、私達と専攻科生の2チームが有明高専から出場しました。今回の大会では、複雑な競技内容であるにも関わらず、過去最多であった昨年度の61チームに匹敵する60チームの参加となりました。厳しい規定の中で、60チームが様々な工夫をしていて、その発想力に驚かされました。

私達は校内予選会から大きく形を変え、架設時間短縮のために、伸縮する形のタワーを制作して本選に挑みましたが、25位という結果に終わりました。

今回、複雑な規定がある中で工夫を加えていくというのはとても難しいものですが、その中で、みんなで考え合い少しずつ製作していくというのはとても楽しいものでした。実際の建築物も厳しい規定や法律の中で建てていかなければなりません。今回は、それと似た体験ができたと思います。この経験を将来に生かしていきたいです。

冬季球技大会

体育局長 3M 西嶋 涼平

12月11日(木)に、冬季球技大会が開催されました。残念ながら雨となり、雨天時競技であるバスケットボール、バレーボール、女子バレーボール、卓球が行われました。前々から各クラス練習に励んでおり、特に4、5年生のクラスは何か月前から練習をし続け、試合に臨みました。各競技白熱した試合展開が目にとまり、全クラス団結力や、やる時はやる!という気迫が感じられました。

本科生以外にも教員、専攻科生が競技に参加し、本科生とぶつかり合いました。教員には競技の経験者が多く、普段みられないパワフルで若々しい姿を見ることができました。

今回は学生会役員が少ない中での運営だったため、終了までの時間がかなりかかってしまいましたが大きなトラブルや怪我も無く終了することができ、素晴らしい球技大会になったと思います。4年生以下は次の春の球技大会に向けて練習し、大会を大いに盛り上げてもらいたいと思います。



最優秀クラス	5E	
優秀クラス	5M	
	優勝	MVP
バスケットボール	5E	高田 知
バレーボール	5M	嘉久志太佑
女子バレーボール	4C	江島 見佳
卓球	2-3	中畑 卓巳



「匠」がやる」の公約で学生会長になりました4M今村匠です。

私は、有明高専に生徒会推薦で入学させていただきました。これまでの4年間、充実した施設の中で同じ目標をもつ先生方や先輩、また仲間たちや後輩たちと共にいろいろな経験をさせていただきました。

その中でも、学生会議所では次世代のリーダーとなっていく難しさ、市民ワークショップでは年齢層の違いや、異業種の方々とのコミュニケーションの難しさなど高専の外でもいろいろな経験をすることができました。これらの活動で学んだことを生かしながら、今までの先輩方の歴史と伝統を受け継ぎ新27年度の学生会役員のスローガン“笑顔”をモットーに、有明高専を盛り上げていきたいと考えています。

最後になりましたが“笑顔の門には福来る。”という言葉がありますように、“匠”と53人の役員と、また先生方とみなさんと有明高専を盛り上げていきましょう！

1年間よろしくお祈りします。



平成27年度 学生会新役員

会 長	4M 今村 匠	
副会長	4I 中嶋 智保	3M 光延 拓也
体育局	3M 西嶋 涼平	4M 中村 匠吾
	3M 江中 幹弥	3M 久家 宏紀
	3M 段浦 晴樹	3M 山村 幸大
	2M 奥園 善仁 (2-2)	2M 恒吉 いづみ (2-1)
	2A 馬場 智章 (2-2)	1C 山口 杏珠
放送局	3I 溝口 昶司	3A 北口 修伍
	3A 永尾 天十里	2I 芳仲 正 (2-5)
	2I 堤 愛海 (2-3)	1E 片桐 南海子
	1C 吉行 隆	
文化局	3M 川口 元貴 (2-5)	3A 伊藤 大貴
	2M 川口 拓真	2C 田中 玲偉 (2-4)
	1A 鏡池 佳英	1A 永瀬 楓
会計局	3I 荒木 涼	4M 江上 俊
	4A 吉山 玲奈	2I 坂田 日明 (2-5)
	1I 居石 桃夜	1I 永田 翔
渉外局	4E 大塚 絢貴	4E 斎藤 孝一
	4E 中村 圭祐	4E 福崎 健介
	3A 城戸 恵李花	3A 古賀 涼華
報道局	2E 柿原 奨 (2-2)	1C 渡辺 香織
	3I 新垣 淑陽	4M 西津 優太
	3M 松永 祐介	3I 栗山 太一
	2I 山田 達郎 (2-1)	2C 宮原 萌衣 (2-5)
整美局	1A 江島 早英	1A 水元 ひろえ
	3E 池上 天翔	3A 近藤 将太
	3A 島田 恵豊	2M 武藤 正明 (2-5)
	2M 山本 隆椰 (2-4)	1E 松尾 旬祐

学生会役員研修

放送局長 3I 溝口 昶司

12月13日(土)に、新旧の学生会執行部役員12名と学生主事室の先生方により、学生会役員研修が行われました。旧局長から一年間の反省点を、新局長からは抱負を述べてもらい、それらを含めて今後の学生会をどう動かしていくかなど方針を話し合い、新旧の引継ぎを行いました。

具体的な方針では、まず「あいさつ運動」について話し合いました。実施期間や参加人数、目標については昨年度も話し合っていたのですが、結局最後まで達成できなかったことが反省点として挙げられたので、期間も人数も見直し効果的なあいさつ運動をしていこうと決定しました。

次に、各局での連携を取り合うことが重要だということ定期的に会議(定例会)を行い、情報交換を密にしていることを決定しました。

旧局長から一番多かった反省が「準備・取り掛かりが遅かった」ということで、そうならないために皆で声を掛け合い、早め早めに動ける体制を整えていくことも目標としました。その後、平成27年度の学生会行事予定を確認し、新規

役員の振り分けを行いました。

学生主事室からは、改善すべき点ははっきりしているのと同じ失敗をしないように考えて行動してほしいと激励の言葉をいただきました。

今回の研修会では、様々な議題について話し合うことができ、とても充実した時間でした。また、新規役員が多かったものでこれからの学生会がもっと活性化していくのではないかと楽しみが膨らんだ研修会でした。



岱明寮だより

寮務主事室

寮長挨拶

4M 山田 凌太



こんにちは。新しく寮長になりました4年機械工学科の山田凌太です。昨年は副寮長を務め、寮生会活動を間近に見ながら、前寮長の末永さんと一緒に活発に、また何事にも自主的に取り組んできました。岱明寮の良い伝統を引き継ぎ、寮生の皆さんが活発に動いていけるような寮を目指したいと思います。また、寮生は勉強に取り組める時間が多くあるにも関わらず、身近に友達がいるが故に、勉強そっちのけで遊んでしまう人が多く見られるようです。寮生の学力向上を目標として、皆さんがより良い寮生活が送れるように精一杯努力していきますので、一年間よろしくお願いします。

予餞会(5年寮生送別会)

岱明寮では5年生の卒寮(予定)を祝って、1月17日(土)に第一体育館にて恒例の予餞会(送別行事)を開催しました。第一部では、福島校長先生から5年寮生に対するはなむけの言葉を頂き、新寮長の山田君と5年代表の末長君から挨拶があった後、校長先生から末長君へ記念品贈呈が行われました。第二部では、若葉棟、青葉棟、桜棟の1年生

と2年生の5グループによる寸劇と卒寮生から在寮生へ向けてのスピーチが交互に行われました。寸劇の最優秀グループと最優秀演技者に賞品が贈られ、参加者全員による万歳三唱で閉会となりました。

5年生の皆さん、卒寮(予定)おめでとうございます!



記念品の贈呈



5年生の挨拶



余興の様子

津山高専との交換寮生

4C 佐藤 奏月・網谷 美里

夏休み(9月8~11日)に交換寮生として岡山県にある津山高専に行ってきました。他高専の寮で実際に生活してみると、有明高専との違いを身を持って体験することができました。有明高専での寮生活をもっとより良いものにするため、津山高専で学んだことを取り入れていけるように頑張っていきたいです。



寮生会新役員

寮生会役員

(平成27年12月19日現在)

寮長 4M 山田 凌太
副寮長 3M 光延 拓也
副寮長 4C 佐藤 奏月

棟長
银杏棟 5M 森岡 佑介
紅葉棟 3A 尾上 朋洋
青葉棟 2E 菊池 玲皇
若葉棟 4A 田中 力
桜棟 4C 佐藤 奏月

局長
局名 4E 山下 祐侍郎
局計 4M 武末 修一
局整 4A 青田 興明
局美 3A 緒方 敬一
局道 4M 原口 竜太郎
局報 3A 緒方 敬一
局給 4M 原口 竜太郎
局管 4M 原口 竜太郎
局理 4M 原口 竜太郎
局楽 イベントは寮生会役員
局娛 全員で企画・運営

若葉棟指導寮生
4A 田中 力
4A 式町 秀星
4E 鶴池 恭太郎
4C 石貫 大地

桜棟指導寮生
4C 網谷 美里
4A 空閑 姫都

*男子棟長・指導寮生の任期は4~3月



第46回有明高専吹奏楽部定期演奏会を終えて

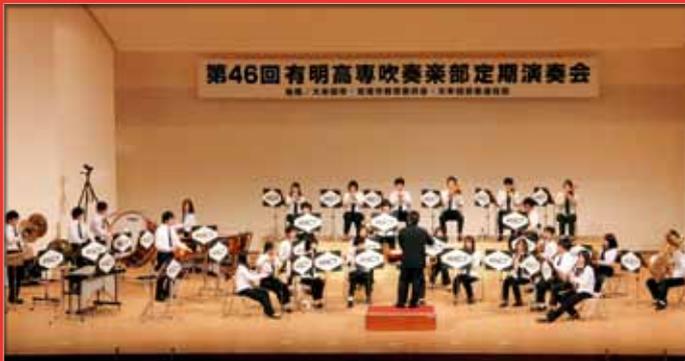
4 | 山田 教太

私たち有明高専吹奏楽部は、1月24日(土)に大牟田文化会館大ホールにて第46回定期演奏会を開催しました。

一昨年、昨年と二年連続でインフルエンザの影響による欠員があり、今年もその不安に一年間付き纏われましたが、なんとか一人の欠員もない状態で定期演奏会を迎えることができました。それがなにより素晴らしいことだったと思います。

こうして定期演奏会を開き続けられるのも、全て学校や地域の皆さまのご協力あつてのことです。今後もより一層の精進を重ね、この定期演奏会を続けていきたいと思ひます。

今回、演奏会にご来場いただきました皆様、また応援してくださいました皆様に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。



有明高専新ロゴマーク決定

本校の新しいロゴマークが決定しました。学生・教職員に公募して集まった44作品の中から厳正に審査が行われました。

採用されたロゴマークのデザインは、国立高等専門学校機構「National Institute of Technology」の「NIT」と有明の「A」を配置し、特に「I」は「innovation」、「inspiration」及び「intelligence」など、本校教育目標に関連する用語を想定できるよう意識的に小文字「i」にし、「A」と「i」を組み合わせて一体表示としたものです。

配色は、スクールカラーのエンジ色を「A」に、キャンパス周辺の里山の緑を「i」に、有明海の青を「N」と「T」にし、有明海に沈みゆく夕日の情景をイメージしています。



専攻科ポスターセッション

専攻科長 上原 修一

専攻科の重要な行事である「ポスターセッション」が1月15日(木)・16日(金)の両日に開催されました。本行事は、専攻科2年生(第13期生)18名の特別研究内容を各専攻科生がポスターにまとめて掲示・説明することにより学内外に発表し、その成果を広く知っていただくことを目的とするものです。

今回は、一昨年と同様、会場を合同教育南棟合同講義室で開催しました(昨年は有明高専創立50周年記念式典と同時開催のため大牟田文化会館で開催)。また、3年目となるポスター賞を決めるためのアンケートを実施しました。

誠実に研究活動に取り組んできた学生諸君の労をねぎらうとともに、ご来場いただいた方々およびアンケートにご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。



編集後記

広報室 中園 洋子

今年度も残すところあと僅かとなりましたが、街を歩くといたるところで新しい季節の始まりを感じられるようになりました。

5年生・専攻科2年生は卒業・修了まであと僅かとなり、新たな門出に際し、期待や不安など様々な思いが生じてきている頃でもあると思いますが、皆さんがこれまで有明高専で培ってきたこと、恩師や仲間の言葉は、今後の人生で大きな自信になるに違いありません。

在校生の皆さんも先輩方の誇らしい姿を胸に刻み、4月から新たな気持ちで充実した高専生活を送ってください。

まだまだ寒い日が続きます。体調には十分注意し、新しい生活に向け準備を進めましょう。

有明高専だより 第145号

平成27年2月18日

編集：有明高専広報室

発行：有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8861 (学生課)

<http://www.ariake-nct.ac.jp/>

花咲く技術を
-Here are Lights-

